

編 集 後 記

平成29年11月に開催された第46回杏林医学会総会では、前回は上回る36演題の一般口演があり、活発な議論が展開されました。しかし、その一方では、本誌第48巻に掲載された原著論文が1編という、たいへん寂しく残念な現状に直面いたしました。今後は、総会でご口演いただいた研究成果も論文としてまとめ、是非、本誌にご投稿くださいますようお願い申し上げます。

平成27年に杏林学園は創立50周年を迎えました。そして、学園の整備期、拡大期、成長期を学園とともに歩んできた杏林医学会は、平成31年に創立50周年を迎えます。昨今の医療の進歩は目覚ましく、最先端の技術を駆使した研究が日常的に展開されていることは言うまでもありません。しかし、医学会創立当初にあっては、現在、日常的に行われている遺伝子解析、組換えDNA実験などは、夢のまた夢であったと思います。そして、そのような夢が現実となった今、「現在の研究・教育環境は先人達が築いてきた歴史の上に成り立っている」という事実を、私たちは決して忘れてはいけなと思います。

昭和63年に保健学部開設10周年記念として刊行された『杏林大学保健学部十年誌』の中で、杏林医学会の創立にも関わった勝目卓朗先生（初代保健学部長、故人）が綴られた次の文章は、今でも私の心に生き続けています。

以下原文から抜粋。

思えば現在ほど、教育し難い時代はあるまい。われわれは、学生を通して、魂を忘れ、ひたすら豊富な物質に没頭してゆく現日本、あるいは世界状況と対面しているわけである。ただ一つの方法、理念のみで処方できるとは思わない。あらゆる処方を考えなければなるまい。ただ、いかなる時代になろうとも、根本にある心理、哲学理念は変わることがない。医にあっては仁、保健にあっては「あらゆる人に健康を」という悲願である。この大慈、大悲のもとに、つねに立ち戻り、ここからつねに出発すべきであろう。

(K.M.)

編 集 委 員

(長) 岡 島 康 友

井 本 滋 川 村 治 子 小 林 富美恵

杉 山 政 則 照 屋 浩 司 松 村 讓 兒

道 又 元 裕 森 秀 明 森 田 耕 司

吉 野 秀 朗

杏林医学会雑誌 第48巻 第4号

URL : <http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/user/kyorinms>

平成29年12月31日発行

編集人 岡 島 康 友

発行所 杏 林 医 学 会

東京都三鷹市新川6-20-2

杏林大学 医学図書館内